



ふるさとファイル

展示コーナーだより
第10号

平成15年4月
長岡京市立図書館

小学校ができたころ

展示期間:4月2日(水)~6月1日(日)
*5月2日から展示替え

今から約130年前、長岡京市内に長法寺小学校・神足小学校の2つの小学校が誕生しました。開校当時、学校はどのように設立され、維持・管理されていたのでしょうか？



小学校以前の教育機関

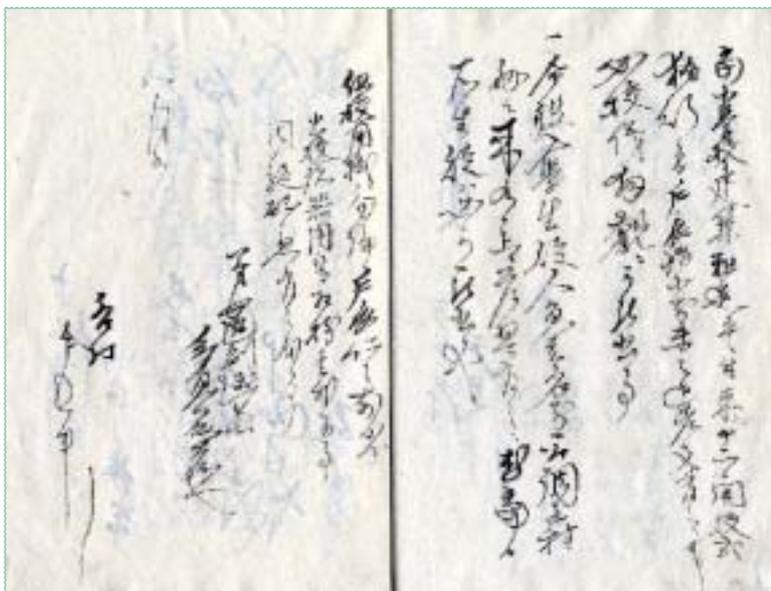
小学校が創立される以前は寺子屋が初等教育の役割を担っていました。幕末の乙訓地域には神足の長松観をはじめ、12の寺子屋があり、医者や神官など村の知識人が「読み・書き・そろばん」を教えていました。今里地区に伝わる明治初年の記録によると、入学金が3銭、授業料は月に4銭程度で、主に数え8~15歳ぐらいの子どもたちが通っていました。これら寺子屋の存在がのちの近代教育の普及へとつながっていきました。



小学校の創立

明治5(1872)年、「学制」の公布とともに初等教育の国民皆学をめざし全国的に小学校の設置が進められていきます。

市内でも明治5年に長法寺小学校が当時1つの行政単位であった長法寺・今里・井ノ内・粟生・奥海印寺・下海印寺・金ヶ原・浄土谷の8カ村によって現在地に創立され、翌年には神足小学校が神足・馬場・古市・勝竜寺・調子・友岡・開田の7カ村によって、現在地から約100メートル離れた字馬場ノ辻(現神足2丁目)に建設されました。



長法寺小学校開校式開催通知 海印寺村役場文書

明治5年8月、長法寺小学校区の各村戸長宛てに、来る12日の開校式には戸長始め末々まで必ず出席するよう通達が出されていました。

市内には神足校建設のため長岡天満宮能舞台の古木を運んだり、建設費の徴収方法の取り決めなど、学校建設に取り組む村のようすがわかる資料が伝わっています。





開校直後のようす

創立当初の授業内容は従来の「読み・書き・そろばん」に加え、新たに修身(道徳)が教えられました。進級も現在とは異なり、小学校を8段階に分け、年2回の進級試験を合格すれば進級する仕組みでした。こうした事情で明治初めの卒業証書の日付は必ずしも3月ではなかったのです。

また、現在と違って教科書や授業料も当時は有償でしたし、子どもたちは家にとって重要な補助労働力であったため、子どもたちの就学は家にとって大きな負担となりました。このため入学しながらも農事や家事の都合を理由に中途退学する生徒も出ました。



左は明治31年の長法寺小学校の卒業記念写真です。
男子は坊主頭、女子は髷を結び、先生も生徒も着物姿です。
洋装の生徒があらわれるのは大正の終わりになってからのことです。



明治31年の卒業記念写真(長法寺小学校所蔵資料)



小学校の維持管理

教師の給料や教材費、施設維持費など学校にかかる費用は、税金とは別に地域住民から徴収したお金や寄付金などでまかなわれるのが原則でした。そのため学校経費の確保は創立当初から村にとって大きな課題となり、「学校規則金」の名目で徴収したり、神足校区の村々のように「小学校永続」のための講を組織して学校費の確保につとめるところもありました。



学校経費徴収簿(海印寺村役場文書)

展示資料

- 4月2日(水)～4月30日(水)
長法寺小学校開校式開催通知
神足小学校入学者取調など
- 5月2日(金)～6月1日(日)
海印寺村学校費徴収簿
長法寺小学校で使用された教科書など

参考文献

- 『長法寺校百年誌』
(長法寺小学校百年誌編集委員会)
- 『神足校百年誌』
(神足小学校百年誌編集委員会)
- 『日本史小百科 学校』(海原徹著)
- 『長岡京市史』本文編二(長岡京市)